

シンボルツリー「アオギリ」が成長しています！



平和首長会議よりいただいた『広島の被爆樹木二世：アオギリ』が1年半で、こんなに大きくなりました。

爆心地側の幹半分が原爆の熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と目を吹き返し、広島市民に生きる勇気と希望を与えたという、その親木の種から発芽したものです。

この「アオギリ」のことをふまえて人権作文を書ってくれた生徒の作文を紹介します。毎日、生徒たちを

見守ってくれていることがわかる作文となっています。

広島原爆とアオギリの樹

毎年、八月になると、テレビで戦争に関する特集が生まれ、平和について考えることが多いです。今年は、ロシアのウクライナ軍事侵攻で、戦争がもたらす悲しい現実をテレビで見ることで感じるが多かったです。

僕は、今年、大瀬中学校に入学しました。毎日通っている校門横に、先輩から、被爆樹木二世の「アオギリ」という樹があることを知りました。こんなところで被爆樹木が見守ってくれていたのかと思うと、驚きました。なぜなら、僕の曾祖父は今も広島にいるからです。毎年、お墓参りをする広島墓には、原爆死と書かれたご先祖がいます。僕は、今、奈良で育っていますが、親戚が原爆で亡くなったり、被爆していたりしていることを、曾祖父から聞いています。だから、原爆は僕にとって非常に身近なものです。そんな被爆樹木二世の「アオギリ」が、僕の中学校生活を見守ってくれていると知り、毎日、うれしく思っています。

先日、テレビで原爆が奪った未来という特集があったので興味をもって観ました。七十七年前、原爆はその年のうちに十四万人もの命を奪ったとされていますが、八月六日のうちに五万人が亡くなったそうです。その中でも僕と同じ中学一年生の人が多く、その理由は、広島市の中心部で軍の主導により、空襲の被害を最小限に抑えるための木造家屋を壊す作業をさせられていたからだそうです。その作業中に八千人が一瞬にして命を落としたそうです。なんと恐ろしい世の中だったのかと思うと、そんな風にさせた戦争を憎く思いました。僕は、大人も子どもも皆が同じように夢をもっていける社会が平和だとこのテレビを見て感じました。

毎日、校門横の「アオギリ」の前を通り、僕は平和を感じ、夢をもって大好きな野球をすることに感謝しなくてはいけないと痛感しています。